

## JR貨物連合第15回定期大会開催



辻村会長

11月13日(水)、浜松市内で開催され、今後の活動方針を満場一致で可決しました。

正壽副会長(中国ロジ)による開会挨拶で始まり、鈴木教仁事務局長(貨物鉄産労)が進行役を務め、大会を代表して挨拶に立った辻村会長(貨物鉄産労)は、「輪軸改ざんデータが発覚し、JR貨物グループ全体で信頼回復に努めているが、私達の使命は安全最優先の業務を遂行することである。JRグループでは、感電・墜落等の重大労



荻山会長

災が起きていることを認識して頂き、輸送障害による作業変更が頻発する中においても、基本動作を遵守し安全最優先の作業をお願いしたい。先日、2024年度の間接決算が発表されたが、予想以上に厳しい結果となった。明日はJR貨物会社の2024年年末手当回答日であるが、生活改善のためにも、労働条件改善に向け、ここにいる皆さんが先頭に立ち、意識を高めて取り組んでほしい」と述べられました。



鈴木事務局長

来賓には、JR連合荻山会長・JR連合住吉局長にお越し頂き、荻山会長からは、JR貨物グループに大きな影響を及ぼす政策課題、「2024問題・2027年アボルール改定・北海道新幹線札幌延伸・鉄道強靱化」の取り組みについて述べられ、特にアボルール改定においては、非常に難しい中身になることは間違いなく、今から準備していく必要性を強く述べられました。



住吉局長

質疑では、JR産業の将来展望・人口減少に伴う外国人労働者雇用・アボルール改定・労働条件改善・政策課題・組織課題等が出され、執行部・JR連合より、現時点での考えや意見を述べ、小山事務局長次長(貨物鉄産労)による総括答弁を行いました。その後、大城副会長(九州ロジ)が大会宣言案を読み上げ、役員改選では、正壽副会長(中国ロジ)が退任、新たに瀧本副会長(中国ロジ)が任命され、山田事務局長(南関東ロジ)による閉会挨拶後、辻村新会長による団結ガンバローで会を終えました。



小山事務局長次長

定期大会終了後、第11回安全デスクッションを行い、小山事務局長次長が進行役を務め、各単組から安全問題を抽出し、重大事故・重大労災が起きてから改善するのではなく、危険作業・危険箇所を早期に改善することをJR貨物会社に対し強く訴えていくこととしました。

